

浅口市 令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要

令和7年10月

浅口市教育委員会学校教育課

【調査概要】

○浅口市内6小学校、1義務教育学校（前期課程）6年生児童205人、2中学校、1義務教育学校（後期課程）3年生生徒238人参加（R7/4/17実施）

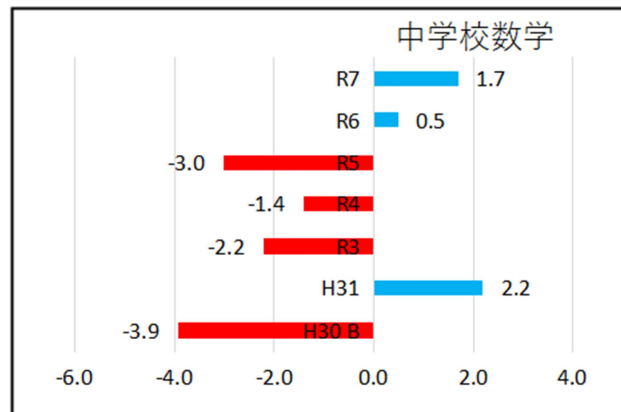
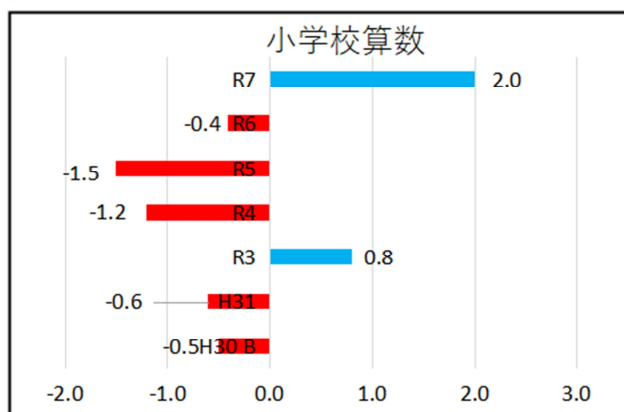
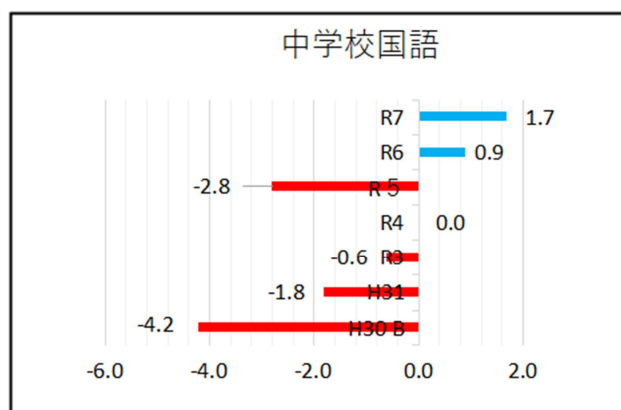
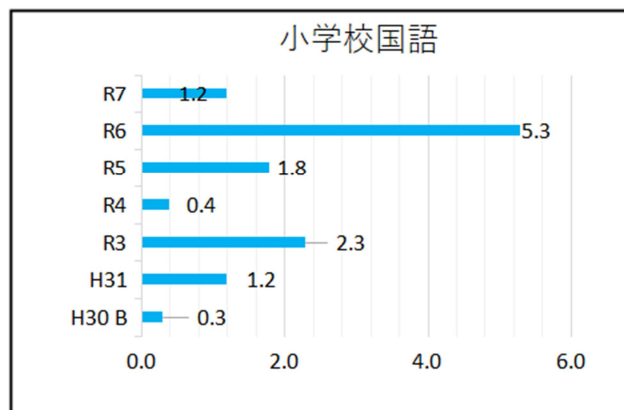
【学力調査の結果概要】

○平均正答率

		国語	算数	理科			国語	数学	理科
小学校	浅口市	68.0	60.0	58.0	中学校	浅口市	56.0	50.0	51.5~52.4
	岡山県	67.0	56.0	57.0		岡山県	55.0	48.0	50.4
	全国	66.8	58.0	57.1		全国	54.3	48.3	50.3

○経年変化（浅口市の平均正答率と全国平均正答率との差）

※R2年度は実施なし



- 浅口市の平均正答率を全国平均と比較すると、小学校では、国語科で1.2pt上回り、算数科で2pt上回った。国語科では基本の徹底や授業改善の成果が大きく表れている。算数科においては、昨年度の0.4ptマイナスから改善が見られるなど基礎学力の定着が進みつつある。

⇒ 朝学習や放課後学習を活用した反復学習や、計算・漢字・語彙などの基礎事項の習熟指導などに取り組んできた結果であると考え。また、つまずきのある児童生徒への個別支援も継続的にを行い、児童生徒の学習理解を確認しながら指導することで、基礎基本の定着に繋がった。

- 中学校では、国語科で1.7pt、数学で1.7pt上回った。2教科ともに全国平均を上回り、昨年度からの基礎学力の定着に向けた取組が成果を出している。

⇒ 各学校において、学習指導要領に基づいた授業改善の取り組みが着実に実践され、児童生徒が主体的に考え、他者と関わりながら学ぶ授業の充実が進んできた。一人ひとりの学習状況や理解度に応じた個別最適な学びと、児童生徒同士が対話を通して学びを深め合う協働的な学びの両立が図られ結果に繋がった。

⇒ 思考の過程を文章で説明する表現力に課題が残る。文章や資料から要点となる部分を抜き出し、筋道立てて説明したり文章に書いたりする表現活動の充実や言語活動の工夫が求められる。

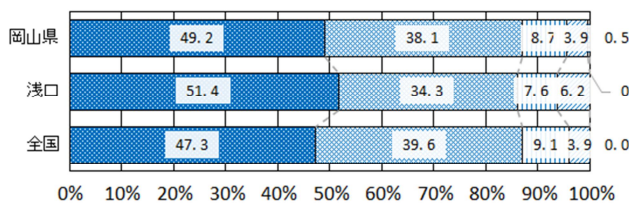
【学習状況調査の結果概要】

(1) 夢育

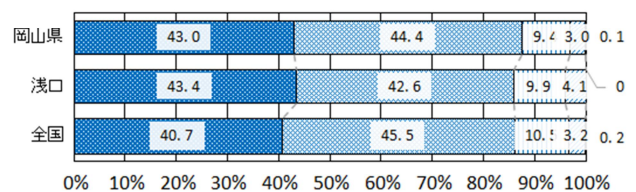
① 自分には、よいところがあると思う

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない □その他・無回答

小6



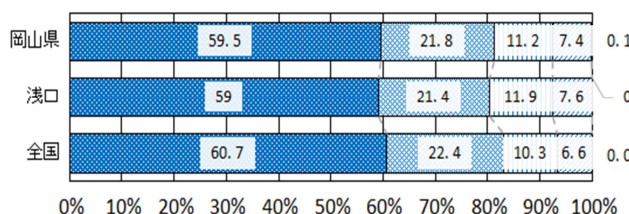
中3



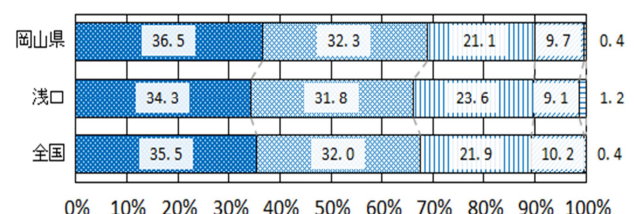
② 将来の夢や目標を持っている

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない □その他・無回答

小6



中3



- 将来の夢や目標を持っていると肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国平均より少し下回っている。年齢が上がるにつれ、夢や希望がもちにくい状況になっている。

⇒ 小中一貫教育とCS（コミュニティ・スクール）での地域の方々との交流の推進。

「ほめて 認めて 励ます」学級づくりの推進。

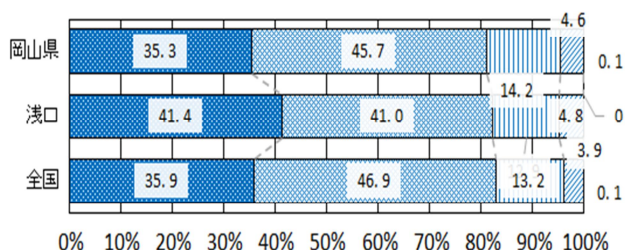
各校でのキャリア教育の充実

(2) 授業について

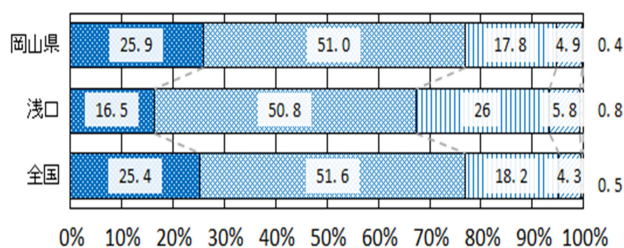
① 国語の授業の内容はよく分かる。

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない □その他・無回答

小6



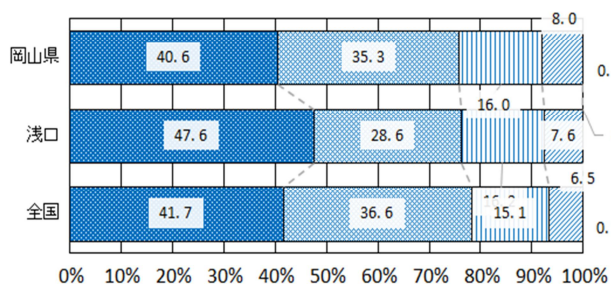
中3



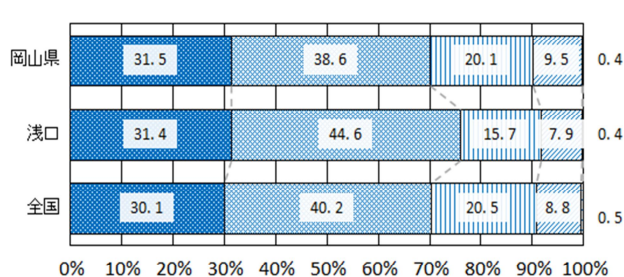
② 算数（数学）の授業の内容はよく分かる。

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない □その他・無回答

小6



中3



- 国語科では、肯定的な回答をした児童生徒の割合は小学6年生では全国平均とほぼ同程度だった。中学3年生では9.7pt下回った。中学校は、学習する内容が難しくなることもあり、小学校と比べると肯定的な回答が減少している。

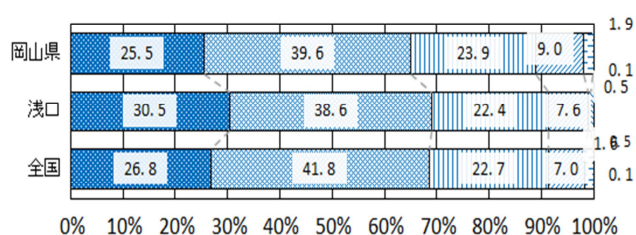
⇒ 全ての児童生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業づくり。

(3) 学びに向かう力

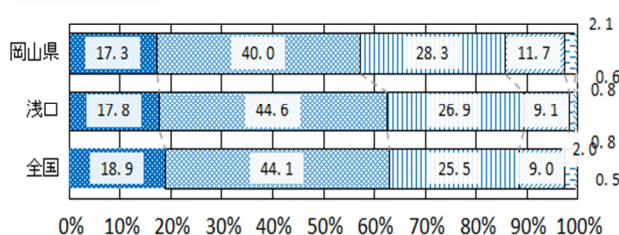
① 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

■発表していた ■発表していなかった ■どちらかといえば、発表していた ■どちらかといえば、発表していなかった ■考えを発表する機会 wasn't ■その他・無回答

小6



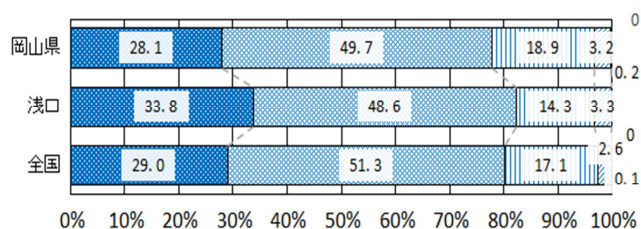
中3



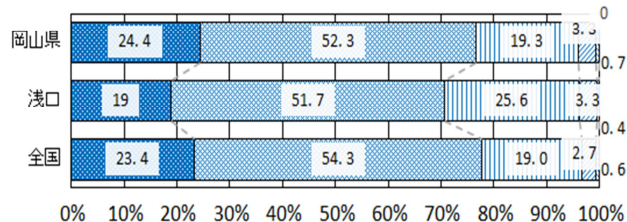
② 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない □その他・無回答

小6



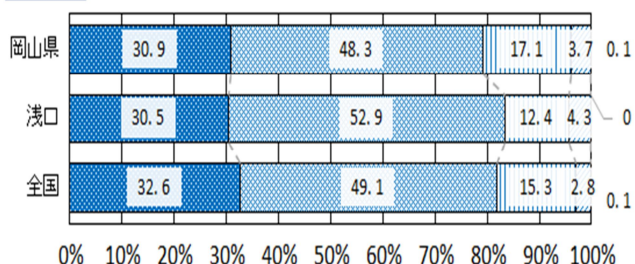
中3



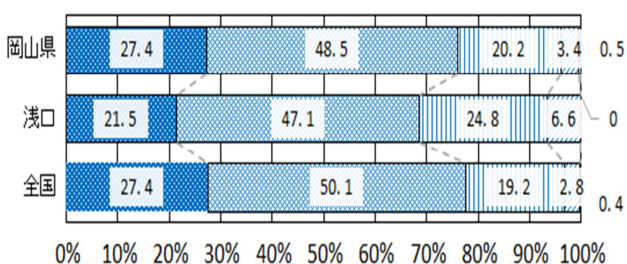
③ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない □その他・無回答

小6



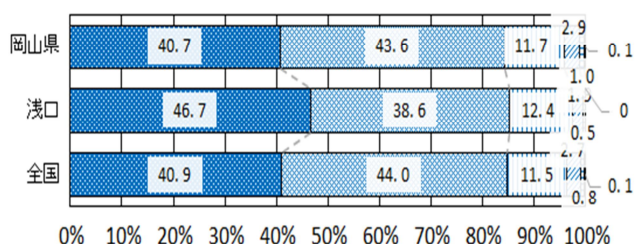
中3



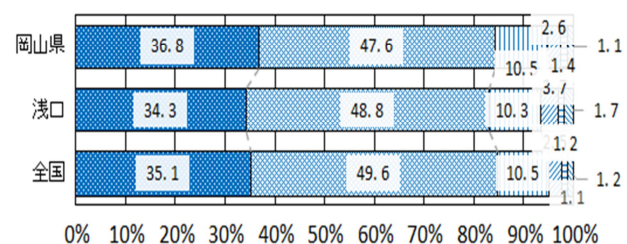
④ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
 ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない
 □学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を行っていない □その他・無回答

小6



中3



- 小学校では、「自分で学び方を考え、工夫することができたか」について、肯定的な回答が全国平均を上回ったが、中学3年生では5.9pt下回った。
- ⇒ 引き続き、一人ひとりが「自分の学び」に主体的に向き合い、どう学ぶかを自分で考えられる力を育成する。また、他者と学び合う中で、考えを深めたり広げたりする学習活動の実践。
- ⇒ 小中一貫教育校での9年間を見据えた特色ある教育活動の実践。

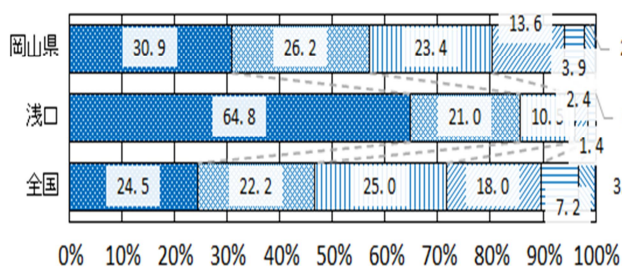
(4) ICT 機器の活用

①授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

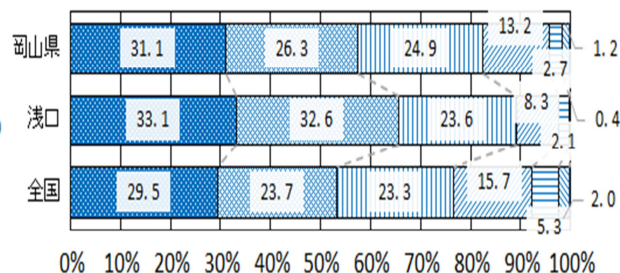
■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月一回未満 ■その他・無回答

※「ほぼ毎日」は、「1日に複数の授業で活用」及び「1日に1回くらいの授業」と回答した児童生徒の割合

小6



中3



● 小中学校ともに肯定的な回答が全国平均を上回り、ICT機器を活用した学習が積極的に行われている。

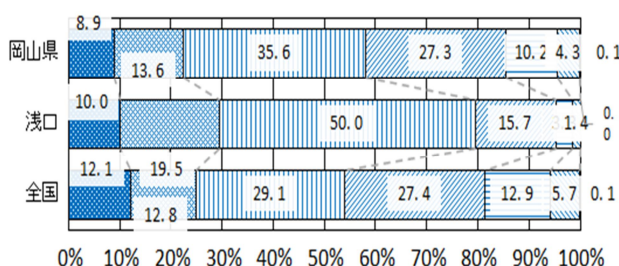
⇒ 1人1台端末の活用による個別最適な学びや協働的な学びの推進。

(5) 家庭学習について

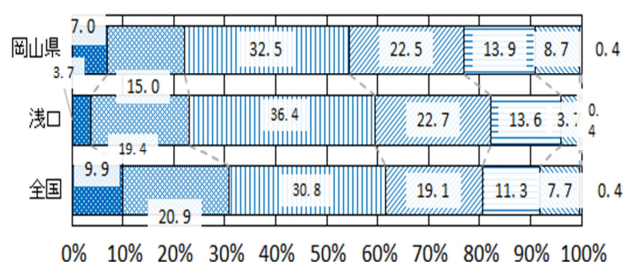
①学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

■3時間以上 ■2時間以上、3時間より少ない ■1時間以上、2時間より少ない
 ■30分以上、1時間より少ない ■30分より少ない ■全く使っていない
 ■その他・無回答

小6



中3



● 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強している」について、1時間以上の割合が小学校は全国平均を大きく上回っているが、中学校はやや下回っている。ただし、中学校の学力調査では、全国平均を国語数学ともに上回っていることから、効率的な学習習慣が定着しつつあると考えられる。

⇒ タブレット端末を活用し、学校教育と家庭学習の連動。

⇒ 自分で計画を立てて学習に取り組むなど、自ら学びを進める経験を重ねることで、学びへの主体性や自己調整力の育成。

● 【市教育委員会の今後の取組】

～キラリと光る未来プロジェクトの推進～

□ 「良質な関わり合い」に焦点を当てた保育・授業改善、家庭学習・補充学習等の質的充実による学力の向上

- 資質・能力の育成に焦点をあてた指導の充実。
- １人１台端末の活用による個別最適な学びや協働的な学びの推進。
- 要請訪問・校内研等を活用して、各校の学力向上、発達支持的生徒指導の実現に向けた授業づくり指導の充実。
- 学習支援員（小・中学校）を効果的に活用し、定期的な補充学習の機会の保障。

□ 「子どもたちの主体的な活動、家庭や地域との連携」に焦点を当てた基本的な生活習慣の向上

- 各校の実践の再構築のための情報共有。
- コミュニティ・スクールを推進し、地域の力を生活習慣の向上の取組に生かす。

□ 「系統的・継続的な教育」に焦点をあてた小中一貫教育の推進

- 学習指導要領に基づく９年間のカリキュラムを編成し、小学校と中学校の滑らかな接続を図る。
- それぞれの小中一貫教育校で特色ある教育活動の実践
- 中学校教員による小学校への乗り入れ授業の実施
- 小中一貫教育校において目指す子ども像を共有し、教職員が一体となって子どもたちの「生きる力」の育成を図る。
- お互いの良さをほめる、認める、励ます活動の継続。
- 「あさくち未来学」（社会に開かれた教育課程）の実践
- 理科教育の充実（岡山天文博物館や県内の大学との連携）

